

令和3年度 江戸川区立船堀第二小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○進んで学習子ども ○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○学ぶ楽しさ、教える喜び、安心して通わせられる信頼のある学校 ○資質・能力が身に付く場 関わりを学ぶ場 自己実現できる場 ○学び合い、高め合い教師力(授業力・指導力)が高まる場
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>○コロナ禍の中、曜日・学年ごとに体育館・空き教室・校庭を割振り、運動する場所を確保するとともに、運動カードを活用し、年間を通して体力の維持を図った。</p> <p>○分散登校の開始以降、教員等が児童アンケート等を活用し、意図的に児童とコミュニケーションを図り、いじめ等の未然防止・早期解決を行った。</p> <p><課題>△通常登校の開始時期の遅れや来校者の制限を行ったため、外部人材による出前授業や他校種間交流を限定的にしか実施することができなかった。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	学習スタンダードによる授業規律の徹底。放課後の補習の実施。ユニバーサルデザインを意識した教育活動の推進。	・授業に関する児童アンケートで80%以上 ・放課後の補習35回以上の実施	A	A	・授業に関する児童アンケートで80%となった。 ・放課後補習を35回以上実施した。	A	次年度からの民間と連携した放課後学習のねらいに適した工夫を行うことを望む。	民間と連携した放課後学習のねらいに適した実施と従来の補習を工夫して実施していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	司書教諭を中心とした読書科の推進及び学校図書館を活用した計画的な学習の実施	・学校図書館利用に関する児童アンケートで80%以上 ・調べる学習コンクールに参加する児童が70%	A	A	・学校図書館利用に関する児童アンケートで83%となった。 ・1～4年の児童の97%が学習コンクールに参加した。5～6年は自由参加とした。	A	区から図書館司書が配置されると、より学習が充実される。学習コンクール参加にもよい影響があるので、全校配置を望む。	区職員の学校図書館アドバイザーを招聘し、読書を通じた探究的な学習を推進し、全学年が学習コンクールに参加する。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間等を活用した運動遊びの計画的な実施	運動に関する児童アンケートで85%以上	A	B	運動に関する児童アンケートで81%となった。	B	今後も外遊びを計画的に実施することを望む。	週時程を工夫し、毎週運動遊びを実施する。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	レガシー創造プランの計画的な実施	オリンピック・パラリンピックに関する児童アンケートで85%以上	A	B	オリンピック・パラリンピックに関する児童アンケートで81%となった。	B	オリ・パラ関連の展示等を学校ホームページで発信することを望む。	特にボランティアマインドに取り組み、情報発信をしていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	ALTとのコミュニケーションを通して異文化理解を促進	外国語活動に関する児童アンケートで80%以上	A	A	外国語活動に関する児童アンケートで93%となった。	A	ALTと協働し、児童が興味・関心をもてるようにすることを望む。	他校や海外と連携した機会を設定する。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめ防止等に関する授業や児童へのアンケートの実施及び教育関連機関との連携	・毎学期、いじめに関する児童アンケートを実施 ・道徳に関する児童アンケートで80%以上	A	A	・毎学期、いじめに関する児童アンケートを実施した。 ・道徳に関する児童アンケートで83%となった。	A	いじめに関するアンケート等を活用して、早期対応・早期解決の継続を望む。	児童と向き合う時間を大事にし細かな変容に気付く、早期対応・組織的対応をしていく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	ユニバーサルデザインを意識した教育活動の実施及び特別支援教育コーディネーターを中心としたエンカレッジルームや校内委員会等による組織的な対応の実施	・ユニバーサルデザインを意識した教育活動に関する児童アンケートで80%以上 ・毎学期、校内委員会の実施やエンカレッジルーム担当表の作成及び運用	A	A	・ユニバーサルデザインを意識した教育活動に関する児童アンケートで93%となった。 ・毎学期、校内委員会の実施やエンカレッジルーム担当表の作成及び運用した。	A	掲示物の位置やユニバーサルデザインを意識した学習の進め方共通化を望む。	ユニバーサルデザインの視点を意識した授業の継続や、巡回教員を活用した研修を実施し、個に応じた指導方法を工夫する。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	ICTアシスタントを活用した研修の実施	・ICTアシスタントの授業時活用40回	A	A	ICTアシスタントの授業活用として40回実施した。	A	タブレット等を活用した授業のアイデアの共有を望む。	タブレット等の特性を知り、活用していく。
	授業改善の推進	・主体的に学ぶ児童の育成のための授業改善の推進	校内研究・授業研究の実施	低・中・高学年で各1回の授業提案の実施	A	A	低・高学年が2学期に、中学年は3学期に授業提案を実施した。	A	新しい切り口で研究内容が充実することを望む。	国語科を軸に読みの力等を育成していく。
特色ある教育の展開	地域交流の促進	・学校の地域貢献活動の実施	近隣公園内における栽培委員会による鉢植えの実施	年2回の鉢植えの実施	A	A	年2回、近隣公園内の鉢植えを実施した。	A	地域との交流の場の継続を望む。	地域施設や高齢者施設とも交流していく。
	専科制の促進	・高学年における専科制の実施	専科教員の充実	算数・音楽・図工・家庭科・外国語及び学年間交換授業の実施	A	A	算数・音楽・図工・家庭科・外国語に加え、3学期から6年でも実施した。	A	時間割を工夫し、適切な授業時間の確保を望む。	5,6年でも教科担任制を取り入れていく。
	異学年交流の推進	・異学年交流を実施	2学年間で友達学級を設定し、実施	毎学期、友達学級として交流	A	A	毎学期、密にならないように工夫して交流を実施した。	A	感染症対策を講じた上で、直接交流・間接交流の実施を望む。	友達学級に加え、低・中・高の交流も行う。